



四番町図書館ラウンジセミナー⑦

明治から昭和の 文人が愛した番町・麴町

2018/10/21



番町・麴町は皇居の西に位置し、江戸時代は旗本屋敷が並んでいましたが、明治期になると、多くの幕臣たちが江戸を去り、特に番町は江戸直参の武家が多かったことから、それらの屋敷の多くが空き家となりました。その後、山の手の景観として残されたこの街に、居を構えたのが文人たちでした。

番町・麴町界限には明治から大正・昭和にかけて、実に多くの作家や文化人たちが住んでいました。歴史と文化のこのエリアの魅力について、「番町文人通り」の名付け親でもある新井巖さんにたっぷり語っていただきます。

開催日時: 12月5日(水)13時~15時

場所: 四番町図書館ラウンジ

定員: 20名(申し込み順)

費用: 無料

講師: 新井巖さん(六番町町会長)

お申込み: 11月22日(木)から電話またはカウンターにて

5 館連動企画



図書館でふれる

江戸・明治の世界

新井巖 profile

1943年、東京生まれ。レコード会社を経て広告界でコピーライターとして活躍。

TCC 新人賞受賞。東京コピーライタークラブ会員。六番町町会会長、わがまち人物館館長を務めるなど、地域コミュニティ活動に力を注いでいる。著書に『番町麴町「幻の文人町」を歩く』(言視舎)など。

問合せ: 四番町図書館 ☎03-3239-6357